

講座名	森に親しむ講座「21世紀の森と広場 春の里山散策」		
開催日時	2021年 4月 22日(木)	9時30	～ 14時00
開催場所	松戸市 21世紀の森と広場	一般参加者	21名

## 活動概要

今日は奇しくも、アースデイ、全世界の人が、地球環境保護の重要性について考え、具体的な行動を起こすことが期待されている日です。公園の名称は、21世紀の森と広場、なんとなく「字余り」のような名称ですが、豊かな森に囲まれてこそ自然豊かで楽しい広場が形成されるという公園設立者の熱烈な思いが込められているのだとか、さてさて、どんな素晴らしい広場なのか、早速散策開始しましょう?・・ということでスタートです。木陰の道にアオキの木が生えていました。山の中で見るアオキの実、真っ赤でいかにも美味しそうなのですが、公園のアオキの実、緑色と赤色のまだら模様です。アオキミタマバエの幼虫が実の中でぬくぬくと生育中、このため、果実は十分に熟すことなく、緑色がいつまでも残るのだそうです。ヒヨドリはこの実を見ると、まだ完熟していないので、美味しくないと判断、タマバエの幼虫は、ヒヨドリに食べられることなく、無事成虫となり、旅立つことができるのだとか、こんなところにも自然の多様な営みが隠されているのかなと楽しくなりました。広場の最奥部にいくと記念碑が立っていました。下総台地の崖線の下段あたりから湧水が流れ出していて、小川が広場の真ん中を流れて、広場の西の端の千駄堀池に注ぎ込んでいました。まさに春の小川がさらさら流れるという趣です。更に進むと、クスノキの大木が太陽の光を浴びて、いかにも気持ちよさそうでした。新緑の代表的樹木のはずなのですが、ところどころに、薄赤色の葉が覗いて、世代交代の最中のような様子。更に進むと、足を踏み出すたびに、ギシギシと変な音がします。足元を見ると、緑色のツブツブが歩道を覆いつくしています。なんと!エノキの実です。枝には鈴なりの実がついていますが、道路を一面覆いつくすほどの実がすでに落下していました。両方足すととんでもない多量の実を成らせていたことになりました。千駄堀池の傍に、オニグルミの木が数本生えていました。雄花はすでに散っていました。ふと見ると、今年伸びだした新枝の先端から、赤く可愛い雌花が伸びだしていました。無事受粉できて、秋には立派な実をつけてもらいたいものです。昼食時、「春の七草さがし」、更に、最近進出してきた「ニセカントウタンポポ探し」をしました。ところが、まったく予想外に、昼食をしたベンチの周りでは、見える範囲中、カントウタンポポが一面に花をつけていました。純粹のカントウタンポポではないとしても、カントウタンポポの形質を色濃ゆく残したタンポポなので、思わず、楽しい気分になりました。午後からは、コナラやクヌギの林の道を散策しました。斜面林のあちこちに色鮮やかなキンランの群生をみることができました。ところどころにジュウニヒトエが清楚な花を咲かせていました。ハウチャクソウの黄緑の花、基部は薄緑、花卉の先端に行くに従い、緑色が濃ゆくくなっていく様子を見ていると、何かしら心休まる思いでした。予定の14時頃解散、あんなこと、こんなこと、あったよね・・と友人と話しながら帰路につきました。



F I C 講師 渡邊 勲 アシスタント講師 羽根 敏子 植沢 俊